OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	平成16年度退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 2006, 46, p. 89-95
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/8547
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

平成16年度
退職教員略歴・主要業績

・都出比呂志　教授　考古学講座（考古学）

・肥塚　　隆　教授　芸術史講座（美術史学）

・中村　生雄　教授　日本学講座（日本学）

都出（つで） 比呂志（ひろし） 教授 略歴・主要業績

略　歴

1942年1月1日　大阪市生まれ
1960年　大阪府立高津高校卒業
1960年　京都大学文学部卒業（考古学）
1966年　京都大学大学院文学研究科修士課程修了
1968年　京都大学大学院文学研究科博士課程中退
1968年　京都大学文学部助手
1977年　滋賀大学教育学部助教授
1979年　大阪大学文学部助教授
1988年　大阪大学文学部教授
1989年　第2回　濱田青陵賞受賞。
1996年　大阪大学評議員（1998年まで）
1997年　雄山閣考古学特別賞受賞（共同）
2004年　八日市市教育功労賞。
2005年3月　大阪大学を定年により退職

学会関係役員

日本考古学協会委員（1970～1980年）
考古学研究会代表委員（1994～1995年）
古文化財学会評議員（1970～2005年）
条里制・古代研究会評議員（1970～2005年）

主要編著書

1『古墳時代の王と民衆』（編著）講談社，1986
2『竪穴式石室の地域性の研究』（単著）大阪大学文学部国史研究室，1986.3
3『日本農耕社会の成立過程』（単著）岩波書店，497頁，1989.2
4『古代史復元6　古墳時代の王と民衆』（編著），講談社，1989.6
5『鳥居前古墳―総括編―』（福永伸哉と共編），大阪大学文学部考古学研究室，1990.3
6『長法寺南原古墳の研究』（編著），長岡京市教育委員会，161-170頁，1992
7『雪野山古墳の研究』（編著），雪野山古墳発掘調査団，1996.3
8『古代国家の胎動』（単著）NHK人間大学1998①－③期，日本放送出版協会，129頁，1998.1

9『古代国家はこうして生まれた』（編著）角川書店，850頁，1998.2
10『王陵の考古学』（単著）岩波新書676，岩波書店，197頁，2000.6
11『前方後円墳と社会』（単著）塙書房，2005.9

主要学術論文

1「農具鉄器化の二つの画期」『考古学研究』51，考古学研究会，36-51頁，1967.2
2「古墳成立前夜の集団関係」『考古学研究』80，考古学研究会，20-47頁，1974.3
3「農業共同体概念の歴史的位置」『新しい歴史学のために』154，民主主義科学者協会京都支部歴史部会，1-11頁，1979.2
4「前方後円墳出現期の社会」『考古学研究』103，考古学研究会，17-34頁，1979.12
5「畿内第五様式における土器の変革」『考古学論考』小林行雄博士古稀記念論文集，平凡社，215-243頁，1982.5
6「環濠集落の成立と解体」『考古学研究』116，考古学研究会，14-32頁，1983.3
7「古代水田の二つの型」『展望　アジアの考古学』樋口隆康教授退官記念論集，新潮社，394-410頁，1983.3
8「弥生土器における地域色の性格」『信濃』35-4，245-257頁，1983.4
9「弥生時代住居の東と西」『シリーズ日本を考える1　言葉と文化』，凡人社，95-124頁，1986.6
10「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』22 史学篇，大阪大学文学会，1-16頁，1988.12
11「日本古代の国家形成論序説—前方後円墳体制の提唱」『日本史研究』343，日本史研究会，5-39頁，1991.3
12「前方後円墳体制と民族形成」『待兼山論叢』27 史学篇，大阪大学文学会，1-26頁，1993.12
13「前方後円墳体制と地方権力」『日本古代国家の展開』上，思文閣，49-72頁，1995
14「国家形成の諸段階—首長制・初期国家・成熟国家」『歴史評論』551，校倉書房，3-16頁，1996.3
15「都市の形成と戦争」『考古学研究』174，考古学研究会，41-57頁，1997.9
16「墳丘墓の比較考古学—異なる墳丘形式の意味」『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室10周年記念論集』大阪大学考古学研究室，3-27頁，1999.4

なお研究業績の詳細については，都出比呂志『阪大考古学と私—都出比呂志業績目録—』（2005年3月）を参照。

肥塚（こえづか）　隆（たかし）教授 略歴・主要業績

1941年８月21日　兵庫県姫路市生まれ

学　歴

1960年（昭和35）３月　兵庫県立姫路西高等学校卒業
1960年（昭和35）４月　京都大学文学部入学
1964年（昭和39）３月　京都大学文学部哲学科（仏教学）卒業
1964年（昭和39）４月　京都大学大学院文学研究科修士課程宗教学（仏教学）進学
1966年（昭和41）３月　同上修了
1966年（昭和41）４月　京都大学大学院文学研究科博士課程宗教学（仏教学）進学
1969年（昭和44）12月～1972年（昭和47）３月　デリー大学サンスクリット学部留学
1973年（昭和48）３月　京都大学大学院文学研究科博士課程宗教学（仏教学）単位取得退学

職　歴

1974年（昭和49）５月　大阪大学助手（文学部）
1976年（昭和51）４月　大阪大学講師（文学部）
1979年（昭和54）４月　大阪大学助教授（文学部）
1989年（平成元）４月　大阪大学教授（文学部）
1995年（平成７）６月～1997年（平成９）５月　大阪大学評議員
1998年（平成10）４月　大阪大学教授（大学院文学研究科）
1999年（平成11）８月～2001年（平成13）７月　大阪大学評議員・大学院文学研究科長
2002年（平成14）４月　大阪大学教授（総合学術博物館）
2002年（平成14）４月～2005年（平成17）３月　大阪大学総合学術博物館長
2005年（平成17）３月　大阪大学を定年により退職
2005年（平成17）４月　大阪人間科学大学および大阪薫英女子短期大学学長に就任

主要業績

〔著　書〕

『美術にみる釈尊の生涯』平凡社，1976.
『ガンジスの聖地』講談社，1976.
『インド美術Ⅰ・Ⅱ』（編集）＜週刊朝日百科世界の美術83・84＞朝日新聞社，1979.
『静かなるインド』（共著）＜新潮古代美術館９＞新潮社，1981.
『仏像の源流をたずねて』＜天竺への旅第２集＞学習研究社，1983.
『岩宮武二写真集アジアの仏像』（共編）２巻，集英社，1989.
『インド・東南アジアの文様』（共編）＜世界の文様４＞小学館，1992.
『インド宮廷文化の華』（編集）NHK，1993.

『インド（1）(2)』（共編）＜世界美術大全集東洋編13・14＞小学館，1999，2000.

『東南アジア』（編集）＜世界美術大全集東洋編12＞小学館，2001.

科研費報告書『東南アジア彫刻史における＜インド化＞の再検討』（編集）2巻，大阪大学総合学術博物館，2005.

〔学術論文〕

「瞑想と造形—インド美術における一つの基礎概念」『南都佛教』20(1967)，60-79頁.

「バーダーミーの初期チャールキヤ朝美術」上野照夫『インド美術論考』平凡社，1973，303-330頁.

「Satavahana 朝の仏教石窟」『日本仏教学会年報』38(1973)，39-57頁.

「南インドのヒンドゥー教石窟（上)(下)」『佛教藝術』93(1973)，37-65頁，98(1974)，3-28頁.

「アイホーレの初期チャールキヤ朝美術」『佛教藝術』102(1975)，3-22頁.

「インドの仏伝美術」『南都佛教』35(1975)，87-111頁.

「インドにおける仏誕生の図像」『美術史』90-92(1976)，58-71頁.

「『従三十三天降下』図の図像」『待兼山論叢美学編』11(1978)，29-48頁.

「インドの涅槃図」元興寺文化財研究所『仏教法会の調査—涅槃会調査報告書—』1979，12-20頁.

"Religious Sites along the River Betwa," *A Comprehensive Survey of Prehistoric and Tribal Arts in Madhyapradesh, India*, Osaka: Faculty of Letters, Osaka University,1981, pp.55-67.

"An Inscribed Bharhut Relief with a Scene from the Life of the Buddha," *Proceedings of the Thirty-First International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa*, Tokyo: The Instutute of Eastern Culture, 1984, pp.626-627.

「マトゥラーにおけるグプタ古典様式の展開」『佛教藝術』156(1984)，80-96頁.

「大乗仏教の美術—大乗仏教美術の初期相—」平川・梶山・高崎編『大乗仏教とその周辺』春秋社，1985，263-291頁.

「ボロブドゥールの説話図とテクスト—『スダナ王子とマノーハラーの物語』浮彫の検討」『民族藝術』3(1987)，77-90頁.

「仏像の誕生と大乗仏教美術の始源」原田・太田編『日本の美術』昭和堂，1989，5-24頁.

「莫高窟第275窟交脚菩薩像与犍陀羅的先例」『敦煌研究』1990-1，16-24頁.

「インドの巡礼」懐徳堂記念会編『道と巡礼—心を旅するひとびと』和泉書院，1993，81-114頁.

「美術史研究における画像データ援用の試み」大阪大学21世紀 COE プログラム，インターフェイスの人文学報告書『映像人文学』2004，38-45頁.

中村（なかむら） 生雄（いくお） 教授 略歴・主要業績

略　歴

1946年７月　静岡県生まれ
1969年３月　京都大学文学部卒業（宗教学専攻）
1979年３月　法政大学大学院人文科学研究科修士課程修了（日本文学専攻）
1989年４月　静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科助教授
1994年１月　同上教授
1996年７月　大阪大学文学部人文学科教授（日本学講座）
1999年４月　大阪大学大学院文学研究科教授（文化形態論専攻）
2005年３月　同上退職
2005年４月　学習院大学文学部日本語日本文学科教授

主要業績

［単著］

『カミとヒトの精神史―日本仏教の深層構造―』（人文書院，1988年６月）
『日本の神と王権』（法蔵館，1994年４月）
『折口信夫の戦後天皇論』（法蔵館，1995年11月）
『祭祀と供犠―日本人の自然観・動物観―』（法蔵館，2001年３月）

［共編著］

『こころとことばに東西の接点を求めて』（北樹出版，1990年７月）
『死の文化誌―心性・習俗・社会―』（昭和堂，2002年10月）
『いくつもの日本』（全７巻）（岩波書店，2002年10月～2003年５月）

［共著］

『絶望からの出発』（山折哲雄監修『親鸞・その人と教え』すずき出版，1984年６月）
『巡礼と文明』（聖心女子大学キリスト教文化研究所編，春秋社，1987年11月）
『日本思想２』（『講座東洋思想』16，岩波書店，1989年３月）
『漂泊する眼差し』（『叢書史層を掘る』５，新曜社，1992年１月）
『日本における女性』（名著刊行会，1992年１月）
『Referate des 2.Japanologentages der OAG in Tokyo』（Ernst Lokowandt 編，iudicum-verlag, Munich，1992年３月）
『宗教時代への挑戦』（春秋社，1993年７月）
『信と知』（慶応通信，1993年10月）

『奈良時代の僧侶と社会』（雄山閣出版，1994年４月）
『日本の神１』（平凡社，1995年５月）
『カリスマ』（春秋社，1995年８月）
『蓮如・転換期の宗教者』（小学館，1997年９月）
『身体と心性の民俗』（『講座日本の民俗学』２，雄山閣，1998年１月）
『宗教と社会生活の諸相』（『沼義昭博士古稀記念論文集』隆文館，1998年３月）
『日本人の思想の重層性』（筑摩書房，1998年４月）
『宗教その原初とあらわれ』（『叢書・転換期のフィロソフィー』４，ミネルヴァ書房，1999年５月）
『新しい教養のすすめ・宗教学』（昭和堂，1999年５月）
『観音信仰事典』（戎光祥出版，2000年１月）
『「根拠」への探究』（『シリーズ近代日本の知』５，晃洋書房，2000年12月）
『宗教の根源性と現代』（晃洋書房，2001年３月）
『生と死の文化史』（懐徳堂記念会編，和泉書院，2001年６月）

［論文］
「景戒の回心と『日本霊異記』」（『文学』48－１，岩波書店，1980年１月，73-90頁）
「『日本霊異記』の夢」（『宗教研究』244，1980年６月，25-47頁）
「聖人と聖遺物」（『比較思想研究』16，1990年３月，151-160頁）
「〈ニッポン自然教〉批判」（『仏教』35，法蔵館，1996年４月，22-42頁）
「近代日本の宗教と国家」（『近代日本文化論』９，岩波書店，1999年３月，55-78頁）
「日本の『近代』と『自己』について」（『日本学報』19，2000年３月，69-84頁）
「加藤玄智の神道学と生祠研究」（『宗教研究』325，2000年９月，121-144頁）
「『食国』の思想」（今谷明編『王権と神祇』思文閣出版，2002年６月，315-337頁）
「即位儀礼―王の誕生と国家―」（『天皇と王権を考える』５，岩波書店，2002年７月，19-39頁）
「『殺す文化／食べる文化』再考」（『宗教哲学研究』20，2003年３月，84-92頁）
「喜田貞吉の見た日本仏教」（『日本仏教綜合研究』１，2003年５月，27-43頁）
「〈古代〉の表象―喜田貞吉の古代史研究と東北―」（『日本学報』23，2004年３月，１-15頁）
「『肉食妻帯』問題から見た日本仏教」（『GYROS』６，2004年９月，90-101頁）
「殺生の逆説」（『講座宗教』７，岩波書店，2004年８月，117-142頁）
「『鉄砲を捨てなかった日本人』のこと」（『季刊東北学』３，2005年４月，64-75頁）
「戦没者慰霊と遭難者慰霊の遭遇」（『季刊東北学』４，2005年７月，150-156頁）